

平成 19 年 度 事 業 報 告

(平成19年4月1日より平成20年3月31日まで)

社団法人 日本記録メディア工業会

1. 記録メディアの需要、生産、流通、消費に関する調査研究

(1) 記録メディアの世界需要および世界生産予測

記録メディア製品(光ディスク、光磁気ディスク、磁気テープ、フロッピーディスク、小型メモリーカード)の世界需要と生産予測を2007年の推定実績に基づきまとめ11月16日報道各社に対しての記者発表とセミナーでの解説を行い、ホームページへの公開を行った。予測は2010年までの3ヵ年とし今回初めての試みとして小型メモリーカードの世界需要予測を行った。光磁気ディスク(3.5型MO)の世界生産は、日系メーカーに限定され市場規模が縮小していることから予測を中止した。

光/光磁気ディスク

(a) CD-Rの世界需要と世界生産予測

データ用CD-Rの世界需要は2005年をピークに減少傾向にある。これまでデータ用CD-Rは光ディスク業界を牽引してきたが、2009年に追記型DVDの需要規模を下回る予測となった。

データ用CD-R世界需要

単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日 本	309 (91)	277 (90)	252 (91)	231 (92)
北 米	2,226 (93)	2,056 (92)	1,874 (91)	1,714 (91)
欧 州	2,438 (92)	2,226 (91)	2,033 (91)	1,858 (91)
その他地域	1,848 (97)	1,769 (96)	1,621 (92)	1,489 (92)
世界合計	6,821 (94)	6,328 (93)	5,780 (91)	5,292 (92)

録音用CD-Rの世界需要も2004年をピークに減少が続く。しかし国内では録音用CD-Rのデザインが好評で、音楽データのバックアップ用として需要の微増が続いている。

録音用CD-R世界需要

単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日 本	40 (118)	44 (110)	46 (105)	47 (102)
北 米	168 (88)	154 (92)	140 (91)	127 (91)
欧 州	43 (93)	37 (86)	33 (89)	30 (91)
その他地域	14 (93)	13 (93)	12 (92)	11 (92)
世界合計	265 (93)	248 (94)	231 (93)	215 (93)

CD-Rの世界生産(データ用・録音用を含む、ODMを含む)はデータ用CD-R、録音用CD-Rの世界需要減に対応して減少する。

CD - R世界生産

単位:百万枚 / 実数枚 ()内は前年比: %

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日系メーカー	1,616 (74)	1,366 (85)	1,214 (89)	1,093 (90)
海外メーカー	6,184 (101)	5,874 (95)	5,446 (93)	4,967 (91)
世界合計	7,800 (94)	7,240 (93)	6,660 (92)	6,060 (91)

(b) CD - RWの世界需要予測

CD - RW(データ用、録音用を含む)の世界需要も小型メモリーカードやUSBメモリなどとの競合が要因で大幅な減少を予測した。

CD - RW世界需要

単位:百万枚 / 実数枚 ()内は前年比: %

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	15 (83)	12 (80)	10 (83)	9 (90)
北米	82 (87)	71 (87)	62 (87)	54 (87)
欧州	79 (90)	69 (87)	61 (88)	55 (90)
その他地域	29 (88)	26 (90)	24 (92)	22 (92)
世界合計	205 (88)	178 (87)	157 (88)	140 (89)

(c) 記録型DVD(12cm、8cm)の世界需要と世界生産予測

追記型DVD(12cm)の世界需要の拡大は続くが2009年から成長率が鈍化する。国内ではデジタル放送録画対応メディアが需要を牽引しているが、2010年は青紫色レーザーディスクの市場拡大を考慮して減少を予測した。

追記型DVDの世界需要

単位:百万枚 / 実数枚 ()内は前年比: %

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	836 (111)	905 (108)	938 (104)	919 (98)
北米	1,900 (116)	2,047 (108)	2,102 (103)	2,097 (100)
欧州	2,042 (120)	2,295 (112)	2,417 (105)	2,459 (102)
その他地域	768 (140)	948 (123)	1,086 (115)	1,174 (108)
世界合計	5,546 (119)	6,195 (112)	6,543 (106)	6,649 (102)

書換型DVD(12cm)の世界需要は2010年から減少に転じる。小型メモリーカードやUSBメモリなどとの競合が要因でパソコン用途としての需要が鈍化すると予測した。

書換型DVDの世界需要

単位:百万枚 / 実数枚 ()内は前年比: %

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	121 (110)	127 (105)	123 (97)	116 (94)
北米	114 (107)	117 (103)	115 (98)	110 (96)
欧州	194 (114)	210 (108)	217 (103)	214 (99)
その他地域	29 (126)	33 (114)	36 (109)	36 (100)
世界合計	458 (112)	487 (106)	491 (101)	476 (97)

記録型DVDの「録画用」、「データ用」のタイプ別国内需要動向では「録画用」が50%以上を占める構成比に大きな変化はなく、国内では録画需要が依然として根強い。また追記型DVDが「録画用」では約80%、「データ用」ではほぼ100%を占める。

録画用DVDタイプ別国内需要 単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
追記型DVD	426 (107)	443 (104)	450 (102)	441 (98)
構成比	79%	79%	80%	80%
書換型DVD	113 (112)	119 (105)	116 (97)	110 (95)
構成比	21%	21%	20%	20%
合計	539 (108)	562 (104)	566 (101)	551 (97)

データ用DVDタイプ別国内需要 単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
追記型DVD	410 (115)	462 (113)	488 (106)	478 (98)
構成比	98%	98%	99%	99%
書換型DVD	8 (89)	8 (100)	7 (88)	6 (86)
構成比	2%	2%	1%	1%
合計	418 (115)	470 (112)	495 (105)	484 (98)

記録型DVD(8cm)の世界需要は2008年に追記型、書換型を合わせて1億枚を超える。8cm DVDは可搬性、容量の拡張性、コンテンツの識別の容易さといった特徴を持つことから、成長率は鈍化するものの追記型、書換型共に堅調な伸びを見込む。

追記型8cmDVDの世界需要 単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	5 (167)	5 (100)	5 (100)	5 (100)
北米	24 (126)	30 (125)	36 (120)	38 (106)
欧州	11 (183)	15 (136)	19 (127)	20 (105)
その他地域	4 (200)	6 (150)	8 (133)	9 (113)
世界合計	44 (147)	56 (127)	68 (121)	72 (106)

書換型8cmDVDの世界需要 単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	6 (150)	7 (117)	7 (100)	7 (100)
北米	10 (125)	12 (120)	14 (117)	15 (107)
欧州	16 (145)	21 (131)	24 (114)	26 (108)
その他地域	7 (175)	9 (129)	10 (111)	10 (100)
世界合計	39 (144)	49 (126)	55 (112)	58 (105)

記録型DVD(追記型・書換型、ODMを含む)の世界生産は拡大が続くが、日系メーカーの生産は青紫色レーザーディスクへのシフトにより海外メーカーに比べて早く減少が始まると予測した。

追記型DVDの世界生産

単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日系メーカー	2,385 (123)	2,676 (112)	2,797 (105)	2,764 (99)
海外メーカー	3,763 (118)	4,192 (111)	4,473 (107)	4,629 (103)
世界合計	6,148 (119)	6,868 (112)	7,270 (106)	7,393 (102)

書換型DVDの世界生産

単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日系メーカー	140 (99)	139 (99)	131 (94)	118 (90)
海外メーカー	354 (115)	413 (117)	432 (105)	429 (99)
世界合計	494 (110)	552 (112)	563 (102)	547 (97)

(d) 青紫色レーザーディスク(BD、HD DVDを含む)の世界需要予測

青紫色レーザーディスクの世界需要は急速に拡大し、2010年には2億枚を超える予測となった。
なお平成20年2月19日に株式会社東芝がHD DVDレコーダー事業の終息を発表した。

青紫色レーザーディスクの世界需要

単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
世界合計	5 (500)	24 (480)	85 (354)	215 (253)

(e) 光磁気ディスク(3.5型MO)の世界需要予測

3.5型MOの世界需要は国内需要が全体の90%以上を占め大幅な減少が続く。

3.5型MOの世界需要

単位:千枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	5,700 (71)	4,280 (75)	3,210 (75)	2,410 (75)
北米	100 (78)	80 (80)	70 (88)	50 (71)
欧州	190 (79)	150 (79)	120 (80)	100 (83)
その他地域	190 (82)	150 (79)	120 (80)	100 (83)
世界合計	6,180 (72)	4,660 (75)	3,520 (76)	2,660 (76)

磁気メディア

(a) オーディオメディアの世界需要と世界生産予測

オーディオカセットテープ(ブランクテープのみ)の世界需要は減少し2010年に1億巻を割込む。

オーディオカセットテープ世界需要

単位:百万巻/実数巻 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	43 (81)	34 (79)	27 (79)	21 (78)
北米	45 (73)	33 (73)	24 (73)	18 (75)
欧州	25 (69)	16 (64)	9 (56)	7 (78)
その他地域	100 (83)	84 (84)	69 (82)	50 (72)
世界合計	213 (78)	167 (78)	129 (77)	96 (74)

オーディオテープ(ダビング向け含む)の世界生産も需要減に対応して減少が続くが、特定地域でのダビング向けの需要はまだ根強い。

オーディオテープ世界生産 単位:百万巻 / C - 60換算 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日系メーカー	42 (55)	29 (69)	24 (83)	18 (75)
海外メーカー	760 (89)	650 (86)	520 (80)	390 (75)
世界合計	802 (87)	679 (85)	544 (80)	408 (75)

録音用ミニディスクの世界需要は国内の市場が中心であったことから世代交代による大幅な減少が続く、**録音用ミニディスクの世界生産**も需要の減少に対応して減産が進んでいる。

録音用ミニディスク世界需要 単位:百万枚 / 実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	62 (73)	40 (65)	26 (65)	18 (69)
その他地域	6 (60)	5 (83)	3 (60)	3 (100)
世界合計	68 (72)	45 (66)	29 (64)	21 (72)

録音用ミニディスク世界生産 単位:百万枚 / 実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日系メーカー	56 (71)	37 (66)	27 (73)	20 (74)
海外メーカー	15 (75)	12 (80)	5 (42)	3 (60)
世界合計	71 (72)	49 (69)	32 (65)	23 (72)

(b) ビデオメディアの世界需要と世界生産予測

フルカセットビデオテープ(ブランクテープのみ)の世界需要は2010年に1億巻近くまで減少する。

フルカセットビデオテープ世界需要 単位:百万巻 / 実数巻 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	82 (75)	67 (82)	54 (81)	44 (81)
北米	63 (50)	44 (70)	29 (66)	20 (69)
欧州	41 (66)	29 (71)	18 (62)	13 (72)
その他地域	46 (77)	37 (80)	29 (78)	24 (83)
世界合計	232 (65)	177 (76)	130 (73)	101 (78)

ビデオテープ(ダビング向けを含む)の世界生産は、フルカセットビデオテープの需要減とダビングビジネスの縮小で大幅減となる。

ビデオテープ世界生産 単位:百万巻 / T - 120換算 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日系メーカー	41 (61)	34 (83)	26 (76)	20 (77)
海外メーカー	230 (62)	160 (70)	110 (69)	85 (77)
世界合計	271 (62)	194 (72)	136 (70)	105 (77)

ムービー用カセットテープ(Cカセット+8ミリ+ミニDVカセット)の世界需要は需要全体の90%近くを占めるミニDVカセットの需要が世代交代により減少しているため減少の傾向が続く。

ムービー用カセットテープ世界需要 単位:百万巻/実数巻 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	31 (86)	25 (81)	20 (80)	15 (75)
北米	70 (88)	57 (81)	49 (86)	42 (86)
欧州	62 (89)	54 (87)	46 (85)	37 (80)
その他地域	45 (98)	42 (93)	37 (88)	32 (86)
世界合計	208 (90)	178 (86)	152 (85)	126 (83)

ムービー用カセットテープ世界生産 単位:百万巻/実数巻 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日系メーカー	225 (88)	190 (84)	162 (85)	130 (80)
海外メーカー	0	0	0	0
世界合計	225 (88)	190 (84)	162 (85)	130 (80)

ミニDVカセット世界需要 単位:百万巻/実数巻 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	30 (86)	24 (80)	19 (79)	14 (74)
北米	47 (96)	44 (94)	40 (91)	35 (88)
欧州	55 (92)	50 (91)	43 (86)	34 (79)
その他地域	39 (100)	36 (92)	32 (89)	28 (88)
世界合計	171 (93)	154 (90)	134 (87)	111 (83)

ミニDVカセット世界生産 単位:百万巻/実数巻 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日系メーカー	185 (92)	166 (90)	145 (87)	120 (83)
海外メーカー	0	0	0	0
世界合計	185 (92)	166 (90)	145 (87)	120 (83)

(c) フロッピーディスクの世界需要予測

フロッピーディスクの世界需要は急速に減少し、国内需要は1995年に5億枚を数えたが2010年には約1千万枚の規模となる。

フロッピーディスク世界需要 単位:百万枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
日本	33 (70)	23 (70)	16 (70)	12 (75)
北米	175 (84)	127 (73)	89 (70)	63 (71)
欧州	191 (82)	134 (70)	94 (70)	65 (69)
その他地域	189 (75)	142 (75)	106 (75)	80 (75)
世界合計	588 (79)	426 (72)	305 (72)	220 (72)

小型メモリーカード

小型メモリーカード(SDメモリーカード、メモリースティック、コンパクトフラッシュ、xD ビクチャーカード、スマートメディア、MMC、TFフラッシュ、ATAを含む)の世界需要はBRICs諸国における携帯電話の普及などに対応して拡大を続ける。国内需要の容量構成比は、ワンセグ記録・再生、動画撮影といった携帯電話の多機能化、デジタルカメラにおける一眼レフの普及を背景に大容量ニーズが高まるため、「4GB～」は2008年で28%、2009年で46%、2010年で60%となり、大容量化が急速に進む。

小型メモリーカード国内及び世界需要

単位:千枚/実数枚 ()内は前年比:%

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
国内	60,350 (108)	63,930 (106)	68,000 (106)	72,500 (107)
世界合計	540,000 (140)	660,000 (122)	713,000 (108)	770,000 (108)

国内は世界合計の内数

小型メモリーカード容量構成比別国内需要

単位:千枚/実数枚

	2007年推定実績	2008年予測	2009年予測	2010年予測
～32MB	5,310	1,280	0	0
構成比	9%	2%	0%	0%
64MB～128MB	14,000	8,950	4,760	2,900
構成比	23%	14%	7%	4%
256MB～512MB	15,090	9,590	6,120	4,350
構成比	25%	15%	9%	6%
1GB～2GB	22,930	26,210	25,840	21,750
構成比	38%	41%	38%	30%
4GB～	3,020	17,900	31,280	43,500
構成比	5%	28%	46%	60%
合計	60,350	63,930	68,000	72,500

(2) 平成18年記録メディア製品国内需要予測公表値の検証

平成18年11月に推定実績として発表した平成18年国内需要予測の実績検証を行い、平成19年5月30日にプレスリリースを発行した。

国内需要の検証結果

()内は前年比:%

			平成17年	平成18年
データ用CD-R	(百万枚)	予測値		321 (92)
		実績値	350 (97)	338 (97)
録音用CD-R	(百万枚)	予測値		29 (97)
		実績値	30 (107)	34 (113)
CD-RW (録音用、データ用含む)	(百万枚)	予測値		20 (87)
		実績値	23 (92)	18 (78)
追記型DVD	録画用	(百万枚)	予測値	383 (129)
			実績値	296 (201)
	データ用	(百万枚)	予測値	340 (127)
			実績値	268 (206)
書換型DVD	録画用	(百万枚)	予測値	97 (128)
			実績値	76 (143)
	データ用	(百万枚)	予測値	11 (157)
			実績値	7 (117)
8cmDVD	追記型	(百万枚)	予測値	3 (150)
			実績値	2 (333)
	書換型	(百万枚)	予測値	5 (250)
			実績値	2 (200)
MO	3.5型MO	(千枚)	予測値	8,600 (80)
			実績値	10,800 (76)
オーディオカセットテープ	(百万巻)	予測値		52 (81)
		実績値	64 (81)	55 (86)
録音用ミニディスク	(百万枚)	予測値		83 (67)
		実績値	123 (78)	85 (69)
フルカセットビデオテープ	(百万巻)	予測値		121 (78)
		実績値	156 (85)	112 (72)
ムービー用カセットテープ (Cカセ+8ミリ+ミニDVカセット)	(百万巻)	予測値		40 (91)
		実績値	44 (96)	37 (84)
ミニDVカセット (ムービー用カセットテープ内数)	(百万巻)	予測値		37 (90)
		実績値	41 (98)	35 (85)
フロッピーディスク	(百万枚)	予測値		47 (75)
		実績値	63 (75)	47 (75)

(3) 記録メディアに関するユーザー使用実態調査

記録型DVDの消費者の使用実態を把握するための調査、研究

市場調査WGが5年連続でWebアンケートによりまとめた「DVDメディア消費者調査報告書」はこれまでの記録型DVD機器およびメディアを対象とした時系列での変遷把握を基本としつつ、新たに「デジタル放送」「ハイビジョン」を切り口とした調査によって光ディスク市場の現状や消費者意識を明確にすることを目的とし、今後の市場変化についての予測の判断材料として活かせる内容とした。なお今回からCD-ROMにて頒布する。

〔Webアンケート調査方法と報告書の概要〕

全国のWebアンケートモニターのうちDVDを認知する15歳以上の男女7,684名を対象に調査を実施した。報告書は「調査企画」、「調査結果概要」、「DVD意識調査の結果詳細」、「DVDビデオレコーダー使用者調査の結果詳細」、「データ記録用DVDドライブ使用者調査の結果詳細」から構成されている。内容の詳細は、平成19年11月発行の「平成19年度版DVDメディア消費者調査報告書(CD-ROM)」参照。

〔今回の調査に際して参画したメンバー〕(敬称略)

主査：小野修平(リコー)

メンバー：松永知子(ソニー)、合田裕彦(太陽誘電)、木越匠、宮内史郎(TDK)、
長峯弘人、嶋田俊行(日本ビクター)、六崎久晃、平井将貴(日立マクセル)、
前田正史、武林潤(富士フイルム)、小山英二、谷口輝彦(松下電器産業)、
山下結加奈(三菱化学メディア)

事務局：山口温敬、宮田一郎

小型メモリーカードの消費者の使用実態を把握するための調査、研究

小型メモリーカードWGがWebアンケートによりまとめた「小型メモリーカードに関する調査報告書」は小型メモリーカードの使用実態の推移とともに新たな使用動向の把握を目的とした。平成19年度版では過去1～2年における調査結果との比較も加えた。今回もCD-ROMにて頒布する。

〔Webアンケート調査方法と報告書の概要〕

全国のWebアンケートモニターのうち携帯電話やデジタルカメラ、パソコン、ビデオカメラなど小型メモリーカード対応機器所有者を対象に調査を実施し男性693名、女性722名、合わせて1,415名から有効回答を得た。今回は携帯電話における小型メモリーカードに対する認識の推移、デジタルカメラによる大容量小型メモリーカード牽引の傾向、アプリケーションの面ではデジタルカメラにおける動画撮影傾向、携帯電話におけるワンセグ放送の録画傾向の変化などを分析してまとめた。内容の詳細は、平成20年3月発行の「平成19年度版小型メモリーカードに関する調査報告書(CD-ROM)」参照。

〔今回の調査に際して参画したメンバー〕(敬称略)

主査：平田桂子(松下電器産業)

メンバー：西村浩美、鈴木久雄(ソニー)、田山進、萩原覚(日本ビクター)、
黒田一典(日立マクセル)、舟崎文博、大竹利博(富士フイルム)、
中村穰(松下電器産業)、吉田稔(東芝コンシューママーケティング)

事務局：山口温敬、宮田一郎

2. 記録メディアの技術動向、利用動向、著作権問題、環境問題に関する調査研究

- (1) 需要予測の一環として、(社)電子情報技術産業協会調査統計委員会需要予測WGとデジタルビデオカメラの需要動向に関して意見交換を行った。
- (2) DVDレコーダーとのインターフェースに関する取組み
お客様がDVDレコーダーを使用されたときに経験する記録再生不良の中で、ディスクメーカーに返品されても再現できない(記録再生に問題がない)件数が多いことから、(社)電子情報技術産業協会のDVDレコーダー関連事業委員会とその原因に関して協議した。
ディスクメーカーで再現できない現象の原因としてDVDレコーダーの「レンズ汚れ」なども考えられることから、「大切な映像を安心して記録・再生するために」と題したファイルを作成してホームページに掲載し、お客様への注意喚起を促した。
- (3) 次世代光ディスクの録画時間などを調査しパッケージの表記に関する約定を制定した。
- (4) 電子化情報の長期保存に関する取組み
記録型DVDの加速寿命推定試験方法の国際標準化に関する意見交換を(社)日本画像情報マネジメント協会、(財)デジタルコンテンツ協会、(社)電子情報技術産業協会、CDs 21ソリューションズと行った。
加速寿命推定試験方法のISOは2008年4月に発行される予定であり、またそのISOの具体的な運用に関する検討も行った。
- (5) 著作権問題に関する取組み
私的録音録画補償金制度の見直しのために設置された文化審議会著作権分科会私的録音録画小委員会に委員を派遣し、それに関連して(社)電子情報技術産業協会著作権専門委員会及び経済産業省、文化庁などの関係官庁と意見交換を行った。
私的録音・録画補償金支払対象となる特定記録媒体の市場価格変動率に基づいて計算した補償金の徴収を会員各社の協力のもとに行い、私的録音・録画補償金管理協会に納付した。
(社)著作権情報センター、(財)音楽産業・文化振興財団などに会員として参加し、著作権思想普及の事業に協力した。
- (6) 記録メディアに関連する各種環境法規制などに対する取組みとして、REACHなどの環境法規制、再生紙問題などに関して会員各社の情報をもとに意見交換した。

3. 情報発信など

- (1) ホームページに新設したページ
大切な映像を安心して記録・再生するために(pdfファイル)
「Pick Up」欄と「お知らせ一覧」を新設
平成20年3月4日の春の講演会開催案内
- (2) 平成19年度に発行したプレスリリース
「平成18年記録メディア製品国内需要予測公表値の検証結果」(5月30日)
「記録メディア製品の世界需要と世界生産の中期予測」(11月16日)
同(英訳)(11月16日)
「平成19年度版DVDメディア消費者調査報告書」まとまる(11月16日)

(3) 記者発表、セミナー・講演会、技術講演会の開催

平成19年11月16日午前11時から第一ホテル東京にて開催した「記録メディアの世界需要と生産予測の記者発表」には新聞・雑誌合わせて28社が参加し多くの記事が掲載された。

平成19年11月16日午後3時から第一ホテル東京にて「記録メディアの世界需要と生産予測の発表」に関するセミナーと経済産業省・商務情報政策局情報通信機器課・星野岳穂参事官の「来年度の新規施策概要」と題した講演会を開催した。当日の参加者は101名で、セミナーにおける発表内容の充実と星野参事官の迫力ある講演内容は好評であった。

平成20年3月4日に有料参加申込み者数98名で下記内容の技術講演会を開催した。

ハイビジョン時代に対応した光ディスクへの録画を語る - ハイビジョン録画技術と光ディスクの発展性を探る -	
1	講演会開催に当たって 山口温敬氏((社)日本記録メディア工業会 常務理事)
2	ハイビジョン記録について 小塚雅之氏(松下電器産業(株) 蓄積デバイス事業戦略室 室長)
3	光ディスクの発展と将来 新井雄治氏(太陽誘電(株) 記録メディア事業部 技術部 部長)
4	完全デジタル時代のコンテンツ提供サービス 春口篤氏(日本放送協会 技術局 番組施設部 部長)

(4) 国際交流

MID詐称問題に関連した会員会社の「特別プロジェクト」と連携し、中国音像協会関係者の訪日団を迎えて「記録型DVDのルール」に関するセミナーを10月24日、25日に東京で開催した。

台湾記録メディア工業会(TRIA)とともに個別に台湾の光ディスクメーカーと交流を行った。

4. 本会の目的を達成するために必要な他の事業など

- (1) 消費者、消費者団体、官公庁等からの記録メディアの保管方法、使用方法に関する問い合わせに迅速に応え、記録メディアの認知、普及、理解促進に役立てた。
- (2) 正会員、賛助会員相互の情報交換の場として会員合同懇親会を1月と5月に開催した。また11月の秋のセミナー開催後にセミナー参加者による懇親会を開催した。

5. 平成19年度各委員会の委員長およびWGの主査

(敬称略)

運営委員会	石川 順(日立マクセル株式会社)
著作権委員会	井田 倫明(松下電器産業株式会社)
光ディスク委員会	伊藤 信久(株式会社リコー)、 吉戸 淳(太陽誘電株式会社)
磁気メディア委員会	大川 忠志(日本ビクター株式会社)
環境委員会	田中 泰光(ソニー株式会社)
市場調査WG	小野 修平(株式会社リコー)
小型メモリーカードWG	平田 桂子(松下電器産業株式会社)
国際統一原産地規則WG	近松 博一(日立マクセル株式会社)

6. 会員の入退会

(1) 賛助会員の入会

(株)アドバンステクノロジー (平成19年5月23日付)
イメーション(株) (平成19年9月12日付)
富士尾産業(株) (平成20年1月7日付)
(株)大日プリンティング (平成20年1月7日付)

(2) 正会員の退会

(株)リコー

(3) 賛助会員の退会

エレコム(株)
丸紅ケミックス(株)
三井化学(株)
(株)KITANO
三研メディアプロダクト(株)
エキスパートマグネティックス(株)
セントレードM.E.(株)
(株)テクシオ
(株)ケイテック
住友精化(株)
旭硝子(株)
東芝コンシューママーケティング(株)

平成20年3月31日現在

正会員会社 9社

賛助会員会社 44社1団体

以上